

## ヨハネによる手紙第一4章13節 「御霊による『留まる』関係」

### 1A 神の命令

1B 心の中の律法

2B 交わり

### 2A 父の約束

1B もう一人の助け主

2B 御父と御子の交わり

### 3A 神殿となった体

1B キリストの宥め

2B 天とのつながり

### 4A 贖いの保証

1B 証印

2B 頭金

### 5A 留まることによる実

1B 聖霊の実

2B 祈りの力

3B 全き喜び

## 本文

ヨハネの手紙第一 4 章を見ていきます。今晚は、4 章 13 節です。「**神が私たちに御霊を与えてくださったことによって、私たちが神のうちにとどまり、神も私たちのうちにとどまっておられることが分かります。**」神が内に留まってくださり、また私たちが神の内に留まるという関係を見ていきます。「留まる」というのは「住む」とも訳すことのできる言葉ですが、共に過ごす、一緒にいるということです。交わりと言ってもよいでしょう。そして、その関係が御霊によって確証が与えられていることを見ます。御霊によって確かなものとされるという点を、今晚は学んでいきましょう。

### 1A 神の命令

これまでヨハネは、神が留まっておられることについて、話したことがあります。3 章 24 節です、「**神の命令を守る者は神のうちにとどまり、神もまた、その人のうちにとどまります。神が私たちのうちにとどまっておられることは、神が私たちに与えてくださった御霊によって分かります。**」神の命令を守る中で、神の内に留まっていて、また私たちも神の内に留まっています。イエス様が、土に種を蒔く喩えでも、良い土地に落ちる人が実を結びますが、それはみことばをよく聞いて、それを堅く留めることによって結ばれる話をされましたね。

そして、その神の命令は、互いに愛することがありますが、4章12節でも、「**私たちが互いに愛し合うなら、神は私たちのうちにとどまり、神は私たちのうちにとどまり**」とあります。こうやって、兄弟を愛するという命令を守る所の中で、その横の関係だけでなく、いや人と人の関係以上に、神との間の関係が保たれます。互いに留まるという交わりをすることができるのです。

### 1B 心の中の律法

そしてこれが、御霊によって保障されているのです。御霊によって分かりますと4章13節にも、今読んだ、3章24節にもあります。これが、御霊の働きで、神の命令が私たちの心に置かれることが、新しい契約の約束であることを、神がエレミヤを通して語っておられました。「31:33 これらの日の後に、わたしがイスラエルの家と結ぶ契約はこうである——【主】のことば——。わたしは、わたしの律法を彼らのただ中に置き、彼らの心にこれを書き記す。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。」これまでは、神の命令は石の板に刻まれていました。あるいは巻物といってもいいかもしれません。けれども、守って従おうとする本人の心も、石のように固いので、律法に違反せざるを得なかったのです。そこで神は御霊を与えて、その心を肉のように柔らかい心にする約束されたのです。

### 2B 交わり

神の命令を守ることができないという問題があります。霊は望んでいても、肉がそれを行おうとしない。そういう問題があります。けれども、肉の弱さによってできなくなっていることを、イエス様は私たちと同じ肉の姿で現れて下さり、その肉において神の処罰を受けられました。そして、御霊を与えられたので、律法の要求が自分のうちで満たされている、とパウロが論じています。「ロマ8:3-4 肉によって弱くなったため、律法にできなくなったことを、神はしてくださしました。神はご自分の御子を、罪深い肉と同じような形で、罪のきよめのために遣わし、肉において罪を処罰されたのです。4 それは、肉に従わず御霊に従って歩む私たちのうちに、律法の要求が満たされるためなのです。」ここでも、「**私たちのうちに**」とありますね。私たちによって、とはないのです。つまり、御霊によって、神が内に留まって下さり、私たちもまた神の内に留まっているので、その交わりの中で神の命令を行うことができるようになったのです。もはや自分が自分の力で、神の命令を守るということではなくなったのです。

ですから、先のエレミヤ31章33節には、「わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。」とあるのです。自分の神ということができ、また神ご自身も私たちを自分の民ということがおできになる。そうした交わりができていて、その中で心が御霊で一新されていて、神の命令を守ることができるようになっていきます。「エゼ36:26 **あなたがたに新しい心を与え、あなたがたのうちに新しい霊を与える。わたしはあなたがたのからだから石の心を取り除き、あなたがたに肉の心を与える。**」私たちがいかに、自分の頑張りよりも、信仰によって生き、また御霊の満たしを求めなければいけないか分かりますね。心を新たにすることのできるのは、神の御霊のみなのです。

## 2A 父の約束

### 1B もう一人の助け主

イエス様は、ご自分が天に昇られてから、「もうひとりの助け主」を御父によって遣わすと約束されました。「ヨハ 14:16 そしてわたしが父にお願いすると、父はもう一人の助け主をお与えくださり、その助け主がいつまでも、あなたがたとともにいるようにして下さいます。」この方がいつまでも共にいるようにして下さり、また内にも住んで下さいます。

### 2B 御父と御子の交わり

御霊がある時には注がれて、またある時に取り除かれるということではなく、いつまでもおられるということで、これまでの神との関係がアップグレードされます。「もう一人」というのは、同じ性質という意味があります。つまり、イエス様と全く同じご性質の霊が、共におられ、内に住まわれるのです。この方が住んでおられるということは、一つとなっている父と子が、そしてその交わりがそのまま、私たちの内にも与えられているということなのです。「ヨハ 14:20 その日には、わたしが父のうちに、あなたがたがわたしのうちに、そしてわたしがあなたがたのうちにいることが、あなたがたに分かります。」イエス様が父の内におられます。この方が父と一つになっておられます。その交わりが、私たちの内にもあるようにして下さっているのです。

## 3A 神殿となった体

このことを使徒たちは、「私たち自身が、神殿となった」ということで教えています。これまでは、荒野の旅をしている時、イスラエルは地上の幕屋によって、神が只中におられることを知りました。けれども、幕という仕切りがありました。ソロモンの時代に神殿が建てられましたが、そこも壁や幕という仕切りがあります。ですから、共におられるということは知ることはできても、「内に留まる」という関係からは程遠いのです。

### 1B キリストの宥め

しかし、キリストが十字架に付けられている時に、神殿の中の聖所と至聖所を隔てる垂れ幕が、上から下に真っ二つに裂けました。神がご臨在される至聖所が、外に開かれたのです。それは象徴的な出来事で、キリストが血を流されたことによって、人々の中にある罪が取り除かれて、清められたので、そのまま大胆に、神の御座に近づくことが許されるようになりました。「ヘブル 10:19-20 こういうわけで、兄弟たち。私たちはイエスの血によって大胆に聖所に入ることができます。20 イエスはご自分の肉体という垂れ幕を通して、私たちのために、この新しい生ける道を開いて下さいました。」

### 2B 天とのつながり

そして、イエス様は、御霊を注いで下さいました。「使 2:33 ですから、神の右に上げられたイエスが、約束された聖霊を御父から受けて、今あなたがたが目にし、耳にしている聖霊を注いでくだ

さったのです。」そのことによって、これまで、天におられる神とのつながるところであった神殿が、私たちのど真ん中に来たのです。実に私たちが、御霊の宿る神殿となったのです。「I コリ 3:16 あなたがたは、自分が神の宮であり、神の御霊が自分のうちに住んでおられることを知らないのですか。」

そこで、教会が地上にある中で、天の権威を行使する現場となったことを、イエス様は教えます。「マタ 18:18-19 まことに、あなたがたに言います。何でもあなたがたが地上でつなぐことは天でもつなぐれ、何でもあなたがたが地上で解くことは天でも解かれます。19 まことに、もう一度あなたがたに言います。あなたがたのうちの二人が、どんなことでも地上で心をつなぐて祈るなら、天におられるわたしの父はそれをかなえてくださいます。」私は時々、この恵みを忘れてしまいます。地上における教会がみすぼらしく、無力に見えることがあります。いいえ、どんなに小さい祈りであっても、天と地のいっさいの権威が父から任せられているイエス様が、私たちの真ん中にいてくださるのですから、絶大な力を持っているのです。

#### **4A 贖いの保証**

そして聖霊が、神のものと私たちをしてくださったという働きを、パウロは「保証」という言葉で言い表しています。「II コリ 1:22 神はまた、私たちに証印を押し、保証として御霊を私たちの心に与えてくださいました。」「エペ 1:13-14 このキリストにあって、あなたがたもまた、真理のことは、あなたがたの救いの福音を聞いてそれを信じたことにより、約束の聖霊によって証印を押されました。14 聖霊は私たちが御国を受け継ぐことの保証です。このことは、私たちが贖われて神のものとなされ、神の栄光がほめられたためです。」

#### **1B 証印**

ここで、パウロは「証印」という言葉を使い、そして「保証」と言う言葉を使っています。その保証とは、御国を受け継ぐことのできる保証だと言います。これは、今、引用したエペソ人への手紙、コリント人への第二の手紙の背景にある、貿易都市に深く関わる言葉です。エペソは、東方のアジアから西方にローマに行われる貿易の中継都市として大いに栄えました。コリントも同じです。エーゲ海から運ばれてきた積荷が、一度、コリントで卸されます。そこは「地峡」と呼ばれていて、わずかな陸地で海と海が隔てられているとことです。ですので、そのわずかな地のつながりのところは、陸路で移動させて、あるいは船ごと陸路で移動させて、向こう側の海でローマへと運ぶのです。アドリア海と言いますが、エーゲ海とアドリア海の間を貿易を支えていた中継都市が、コリントです。

私は、大学卒業後、フォワーダーと呼ばれる国際輸送業界で働いていました。国際間の貿易で、両者間で取引される荷物を、初めから終わりまで預かる仕事です。まず宅急便みたいに陸路で空港まで運びます。そして輸出手続きのための通関をします。そして、飛行機の中で空間をお客さんにとって購入します。飛行機に乗る旅客の代わりに、航空券を購入する委託業務もするので

す。そして到着したら、輸入手続きのための通関をします。そして同じく陸路で相手側の客に届ける手配をします。ここで、初めから終わりまで、確実に届けるために B/L(Bill of Lading)と呼ばれる、「船荷証券」が発行されます。ネットで調べたら、「積荷の所有権を化体した有価証券です。」という説明です。私の働いていた職場では、「BL」という言葉が飛び交っていました。その一つ一つの番号が振られます。その番号をどこにあってもだれが所有者であるかを確認できるのです。所有権が誰であるのか、世界中でたった一つの番号なので、特定ができます。<sup>1</sup>

「証印」というのが、まさにこの B/L です。この荷物が誰の所有物なのか、その所有権を確認し、主張することのできる有価証券です。当時は、人が付けている指輪がありました。指輪に印章がありました。自分の荷物に蠟をたらしめます。そして、その印章を押し付けます。それで、印が押されて、「証印」となるのです。そして、ローマへの荷物は、大体、「プテオリ」という町にある港で卸されます。そこで、だれの荷物なのかを確かめる時に、その証印で確かめるようになっているのです。

つまり、神は聖霊によって、「あなたは、わたしのものなのだ。」と確認をしてくださっているのです。そして、約束の神の国に入る時まで、その確認をもって守ってくださっているのです。主イエスが戻って来られて、神の国が地上に建てられる時、「あなたは、わたしのもの」として確実に、所有権を主張してくださるということです。なんと、うれしいことではないでしょうか？ 私たちは、この地上に生きている間、ちょうど荷物が海の上を船の中で漂っているのと同じように漂い、また他の荷物に囲まれながら生きています。けれども、神の目は確実に注がれています。あなたは、わたしのものだといつも、聖霊によって私たちに太鼓判を押してくださるのです。御霊によって、私たちが神の内にとどまり、神が私たちの内に留まっていることを知るようになっています。

## 2B 頭金

そして、「聖霊は私たちが御国を受け継ぐことの保証です」ともパウロは言っていますね。これも特別な商業用語であって、別訳では「頭金」です。高い買い物をする時に、私たちは一括ではなく、分割払いをしますね。例えば、自動車を購入する時に分割払いをします。自動車販売店に行き、この自動車を買いますと営業の人に伝えます。契約を結ぶ時になりました。そこでその担当の人は、頭金を要求します。それは、本人が本当に自動車を購入するのか確かめるものです。それは、後で返却する預り金とは違い、購入金額の一部であります。購入する人が別の自動車をこの間に購入することになったら、その間、他の人にこの車を販売する機会が失われてしまいます。購入しななことになったら、その保証としてのお金になります。購入者としては、そんなことまでして他の車に乗り移りたくないとは普通は思います。ですから、私は「本気で」この車を買います、という意思表示なのです。

聖霊がその頭金なのです。神が必ず、自分を贖って下さり、御国を受け継がせてくださることを

---

<sup>1</sup> <https://lab.pasona.co.jp/trade/word/9/>



保証するために、御国にある祝福の一部を私たちに前もって注いでくださっているのです。天にある至福の前味を聖霊によって楽しませてくださるのです。パウロは、「ロマ 14:17 神の国は食べたり飲んだりすることではなく、聖霊による義と平和と喜びだからです。」と語っています。信仰によって与えられる神の義。なんと私たちに平安をもたらすでしょうか？そしてキリストが平和となってくださり、キリストにある者たちが一つとなれる。そして、罪から救われたというところから、救いの喜びが泉のように湧き出る。こういったことがあるけれども、神の国が到来した時には、それは前座にしか過ぎなかったと思います。本場イタリアで、パスタが次々と出ていて、メインだと思ったら、実は前菜だったということです。聖霊の満たしによって喜んでいますが、それは神が前もって、保証として与えてくださった、ほんの一部であって、御国にはとてつもない栄光、至福、言葉に尽くせない喜びが待っているのです。

### 5A 留まることによる実

こうしたことによって、私たちは、キリストの内にとどまり、またキリストが私たちの内に留まってくださっています。それで、留まることによって実が結ばれます。「ヨハ 15:5 わたしはぶどうの木、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人にとどまっているなら、その人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないのです。」留まるというのは、極めて関係性を強調している言葉です。結局、だれと付き合っているかですべてが決まってきます。私たちは、とかく、何を行っているか、その行動に注目してしまいがちですが、実は、自分の行動は、何につながっているかで大きく決まってきます。関係があって、行動が伴うのです。

ヤコブはこのことをよく知っていて、「信仰も行いが伴わないなら、それだけでは死んだものです。」と言いました(2:17)。これは、「信仰だけでは足りません。行いもしっかりとやって行きなさい。」ということではありません。行いのない信仰というのは、言い換えれば、「存在しない」ということなのです。信じているなら、神への信頼、キリストへの信頼があるならば、この方との関係があるはずであり、言われることに聞き従っているはずだ、ということなのです。信頼というのは、その人の話を聞いて信用しているのだから、結果的に信じているのです。また、従順の意味もあるでしょう。自分がたとえそう思わなくても、神が言われているのだからという理由だけで、自分の思いを退けて、神を父として敬い、従います。そうした、活きた信仰がまことの信仰であり、それが真実な行いを生み出すということです。

「信仰だけでは足りない、行いによって救いを達成しなければ」という言葉は、イエス様が、「わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないのです。」と言われていることを行うようなものです。イエスを信じるということは、イエス様に留まることです。ただ言い表すだけでなく、この方との関係を深めることです。一緒に住むのですから、大きな決断ですね。それによって、ぶどうの木が、幹から栄養と水分を受け取り、枝を通して実を結ぶように、そのまま行いの実が結ばれるのです。だから、「イエスを信じる」ということが私たちの務めのすべてであり、信じることによって

実が結ばれます。

### 1B 聖霊の実

その時に大事なものは、それらの実は、内に住まわれる聖霊が結ばせてくださるものだという事です。新しい契約というのが、御霊が注がれて、心が一新されて、神の律法が心に記されるということをお出ししてください、命令には従うのですが、その力は聖霊の下さるものであって、御霊に従うことによって、初めて行うことのできるものです。したがって、神が、ご自分の御霊によって、私たちを通して実を結ばせてくださるのです。私たちというよりも、神がご自分に信頼する私たちを通して、ご自分に対する実を結ばせるといったほうがよいでしょう。

それで、ガラテヤ書には、御霊の実をパウロが述べています。「ガラ 5:22-23 しかし、御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、23 柔和、自制です。このようなものに反対する律法はありません。」ここのギリシア語の文法は、実は一つだけになっています。御霊の実は愛であって、その愛の現われが、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制だということです。これで、御霊によって、愛しなさいという命令を行う、ということが分かりますね。

聖霊によって、神の愛が私たちに注がれます。聖霊によらなければ、その愛が分かりません。人間の世界にないからです。「ロマ 5:5-8 この希望は失望に終わることがありません。なぜなら、私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているからです。6 実にキリストは、私たちがまだ弱かったころ、定められた時に、不敬虔な者たちのために死んでくださいました。7 正しい人のためであっても、死ぬ人はほとんどいません。善良な人のためなら、進んで死ぬ人がいるかもしれません。8 しかし、私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死なれたことによって、神は私たちに対するご自分の愛を明らかにしておられます。」その驚くべき神の愛に感動して、それで兄弟を愛する、隣人を愛するという行いができるのです。

### 2B 祈りの力

それから、先ほど、祈りに大きな権限が与えられているとお話ししましたが、留まるという関係の中で、祈りの力が発揮されます。先に、わたしがぶどうの木です、と言われたイエス様の言葉を引用しました。そのことを言われた後で、続けてこう言われています。「ヨハ 15:7-8 あなたがたがわたしにとどまり、わたしのことばがあなたがたにとどまっているなら、何でも欲しいものを求めなさい。そうすれば、それはかなえられます。8 あなたがたが多くの実を結び、わたしの弟子となることによって、わたしの父は栄光をお受けになります。」聖霊による実を結ぶために、願うことがあるなら、何でも欲しいものを求めなさいとイエス様は言われていて、そうしたらかなえられます。なぜなら、多く実を結ぶことが、イエス様の弟子になることであり、神が栄光を受けられるからということです。神に栄光が究極的に行くのです。

### 3B 全き喜び

そして、留まるという生活をしていると、愛にとどまり、愛に留まると、喜びが満ちあふれます。続けてイエス様がこう言われています。「ヨハ 15:10-11 わたしがわたしの父の戒めを守って、父の愛にとどまっているのと同じように、あなたがたもわたしの戒めを守るなら、わたしの愛にとどまっているのです。11 わたしの喜びがあなたがたのうちに入り、あなたがたが喜びで満ちあふれるようになるために、わたしはこれらのことをあなたがたに話しました。」喜びある生活を送るには、イエス様に留まり、そのことばに留まる生活をする。そして、愛に留まる生活をする。そうすれば、自ずと喜びに満ち溢れるようになるということです。

次回は、「証しと告白によって、神と留まる関係に入る」ことについて話してきたいと思います。